

大学等名	美作大学
プログラム名	美作大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違しない
② 対象となる学部・学科名称	
③ プログラム履修必須の有無	令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定
④ 修了要件	対象科目(「情報リテラシー概論」1単位、「調査と統計」2単位)を両方修得すること

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	2 科目
	3 単位

授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況																					
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他	
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	情報リテラシー概論	1	○	○	○	○	○	○															
	調査と統計	2	○	○		○				○	○	○											
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																							
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																							
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																							

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	科目「調査と統計」 ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ・複数技術を組み合わせたAIサービス ・人間の知的活動とAIの関係性 ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 科目「情報リテラシー概論」 ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	科目「調査と統計」 ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど ・1次データ、2次データ、データのメタ化 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など) ・データ作成(ビッグデータとアナレーション) 科目「情報リテラシー概論」 ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約、執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	科目「調査と統計」 ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ ・認識技術、ルールベース、自動化技術 科目「情報リテラシー概論」 ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介
(4) 活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	科目「情報リテラシー概論」 ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) 科目「情報リテラシー概論」 ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	科目「調査と統計」 ・データの種類(量的変数、質的変数) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) ・観測データに含まれる誤差の扱い ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 ・統計的推論の正しい理解(帰無仮説に感ぜられない) 科目「調査と統計」 ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) ・相手の強みかつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーション) 科目「調査と統計」 ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法) ・データの集計(和、平均) ・データの並び替え、ランキング ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール) ・表形式のデータ(csv)

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

(1) 情報社会に関する基礎的知識を修得し、情報や情報通信技術を論理的かつ責任をもって活用しようとすることができる。
(2) データやAIの先端技術によって、社会が大きく変化していることを理解するとともに、これらを活用する価値を説明できる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
生活科学部 食物学科	349	304	80	330	94	87											94	28%
生活科学部 児童学科	276	218	80	326	73	67											73	22%
生活科学部 社会福祉学科	163	113	50	206	73	32											73	35%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	788	635	210	862	240	186	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	240	28%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	48	人
(非常勤)	71	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

1	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	田中 涼
(役職名)	学修・学術情報センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	情報教育委員会
------	---------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	美作大学・美作大学短期大学部 情報教育委員会規程
------	--------------------------

⑥ 体制の目的

本プログラムは、本学全学科の教養・基礎教育科目である「情報リテラシー概論」「調査と統計」を開講しており、情報教育委員会にて本プログラムの自己点検・評価および教育内容改善検討を行う。
情報教育委員会は、学修・学術情報センター委員長を委員長とし、教務部長、教務課長、学修・学術情報センター主任、学長が委嘱した情報教育担当教職員(美作大学短期大学部の教員含む)にて構成される。

⑦ 具体的な構成員

学修・学術情報センター委員長 社会福祉学科 准教授 田中 涼
教務部長 児童学科 教授 安田 純
教務課長 二宮 敦
学修・学術情報センター主任 児童学科 准教授 井上 功太郎
食物学科 講師 影山 鈴美、講師 下池 洋一
児童学科 教授 津々 清美、講師 閻 琳
社会福祉学科 准教授 稲益 智子、准教授 岡田 美佳子
栄養学科 助教 鈴木 真奈美
情報教育支援室 課長補佐 藤田 峰之、係長 椋代 理江、主事 谷村 愛実

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	28%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

令和6年度以前より開講している本学全学科共通の教養・基礎教育科目「調査と統計」に加え、令和7年度より、本学全学科共通の教養・基礎教育科目として、「情報リテラシー概論」を1年次必修科目として開講している。「情報リテラシー概論」については、今後、年次進行に伴い、令和10年度以降は履修率は100%になる。(編入生についてのみ、既修得単位読替により履修しない可能性がある)

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「調査と統計」「情報リテラシー概論」のいずれも、本学全学科共通の教養・基礎教育科目として開講している。「情報リテラシー概論」は全学科の必修科目であり、学生全員が受講する。(編入生についてのみ、既修得単位読替により履修しない可能性がある)
「調査と統計」についても、同一のコマに同学年の複数授業を設置することはせず、希望する学生全員が受講可能な体制を構築済みである。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「調査と統計」「情報リテラシー概論」のいずれも、本学全学科共通の教養・基礎教育科目として開講している。「情報リテラシー概論」は全学科の必修科目であり、学生全員が受講する。(編入生についてのみ、既修得単位読替により履修しない可能性がある)
「調査と統計」についても、同一のコマに同学年の複数授業を設置することはせず、希望する学生全員が受講可能な体制を続ける。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

令和7年度より、本学全学科共通の教養・基礎教育科目として、「情報リテラシー概論」を1年次必修科目として開講しており、学生全員が受講する。(編入生についてのみ、既修得単位読替により履修しない可能性がある)
「調査と統計」についても、同一のコマに同学年の複数授業を設置することはせず、希望する学生全員が受講可能な体制を続ける。
また、全学生を対象として授業目的公衆送信補償金制度に加入し、かつ、LMSであるWebClassを活用することで、履修学生へのサポート体制を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

全学生を対象として授業目的公衆送信補償金制度に加入し、かつ、LMSであるWebClassを活用することで、「情報リテラシー概論」「調査と統計」においても授業で使用する資料等の情報を掲載している。
授業時間外での質問については、オフィスアワーを設け、決まった時間に気軽に教員に質問ができる体制を整えている。また、学修・学術情報センターのヘルプデスクを図書館カウンターに設け、学内ネットワーク等に関する質問を受け付けるとともに、必要に応じて教員との連携を取っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 情報教育委員会

（責任者名）	田中 涼
（役職名）	学修・学術情報センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和7年度より、本学全学科共通の教養・基礎教育科目として、「情報リテラシー概論」を1年次必修科目として開講している。 令和7年度は学生数788名に対して189名が履修し、186名が単位修得している。 今後、年次進行に伴い、令和10年度以降は履修率は100%になる予定である。 （編入生についてのみ、既修得単位読替により履修しない可能性がある） 「調査と統計」については本学全学科共通の教養・基礎教育科目として令和6年度以前より開講しており、食物学科は1年次後期、児童学科は3年次前期、社会福祉学科は2年次後期に配当・開講している。 令和7年度は学生数788名に対して136名が履修し、前期終了時点で児童学科4名が単位修得している。食物学科91名、社会福祉学科41名については後期履修中である。
学修成果	令和7年度の「情報リテラシー概論」では、履修生189名のうち、優178名、良6名、可2名、不可等3名となり、履修者のうち98.4%が単位修得した。 令和7年度の「調査と統計」のうち、前期開講である児童学科では、履修生4名のうち、優4名、良0名、可0名、不可等0名となり、履修者全員が単位修得した。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートにより学生からの意見を収集しており、アンケート結果を踏まえて教員は分析と授業改善を行っている。 令和7年度の「情報リテラシー概論」の授業評価アンケートの結果は、「授業の内容は理解できましたか」の設問（有効回答数181件）に対し、64名（35.4%）が「そう思う」、81名（44.8%）が「まあそう思う」と回答している。 令和7年度の「調査と統計」については、児童学科では履修学生が少ない（4名）ためにアンケートを実施しておらず、食物学科、社会福祉学科では後期授業終了後に授業評価アンケートを実施予定である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートにより学生からの意見を収集しているが、「後輩等他の学生への推奨度」については設問がなく、確認していない。 ただし、「この授業は総合的に見て、良かったと思いますか」という設問があり、令和7年度の「情報リテラシー概論」の学生アンケート結果は、有効回答数181件に対し、102名（56.4%）が「そう思う」、58名（32.0%）が「まあそう思う」と回答している。 令和7年度の「調査と統計」については、児童学科では履修学生が少ない（4名）ためにアンケートを実施しておらず、食物学科、社会福祉学科では後期授業終了後に授業評価アンケートを実施予定である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度より、本学全学科共通の教養・基礎教育科目として、「情報リテラシー概論」を1年次必修科目として開講している。 令和7年度は学生数788名に対して189名が履修し、186名が単位修得している。 今後、年次進行に伴い、令和10年度以降は履修率は100%になる予定である。 （編入生についてのみ、既修得単位読替により履修しない可能性がある） 「調査と統計」についても、令和7年度は学生数788名に対して136名が履修し、現時点では前期で履修した4名全員が単位修得している。同一のコマに同学年の複数授業を設置することはせず、希望する学生全員が受講可能な体制を続ける。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	修了者はすべて在学中であり、進路、活躍状況、企業等の評価に関する情報は無い。今後、情報収集についての検討を行う。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現時点では、意見収集を実施していない。今後、意見収集方法などについて検討を行う。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	数理・データサイエンス・AI分野を「自分ごと」として捉え、学ぶ楽しさや意義を実感できるよう、授業設計にさまざまな工夫をしている。情報リテラシー概論では、身近なAI活用を題材としたクイズ形式の導入や、SNSやメールのマナー、剽窃、個人情報保護など大学生活に密接したテーマを扱い、実際に起こりうる失敗例の映像をもとにディスカッションを行っている。また、ビッグデータや学生自身から得た実データを用いた可視化・分析、さらに時事問題と関連づけた議論を通して、データの社会的意義やリスクへの理解を深めている。調査と統計の授業では、初回に「なぜ調査と統計が必要なのか」という哲学的問いを提示し、理論の学習と並行して、学生自身が設計したアンケート調査を実施・分析する機会を設けている。学生考案の調査案は投票で選出し、FINER基準を用いて調査の意義を吟味させるなど、探究的学びを重視している。Googleフォームによる調査票作成やグループワーク、Excelでのデータ分析など、実践的な内容を多く取り入れることで、データサイエンスの実用性と学ぶ楽しさを体感させている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	社会や技術の変化に対応しながら、授業内容と方法を継続的に見直している。特に生成AIなど新しい技術の発展を踏まえ、AIが生成する文章や図表を例に、情報の信頼性・著作権・データ倫理といった課題を具体的に扱うなど、最新のトピックを授業に反映している。また、毎回の授業で「面白かったか」「理解できたか」「スピードや難易度は適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「役立ちそうか」「積極的に取り組めたか」などを5件法で学生に尋ね、その傾向に基づいて翌回の授業内容や進め方を調整している。さらに、良い質問をした学生に加点する方式を導入し、学生の声を積極的に拾い上げている。こうした継続的なフィードバックと双方向的な調整により、授業の水準を維持しつつ、より「分かりやすく・納得感のある」授業づくりに努めている。

情報リテラシー概論

生活科学部 > 食物学科
1年生
1単位 前期
講義
必修
研究室：132（稲益）

稲益 智子

〔ディプロマ・ポリシーの要素との関連〕

食・健康に関する諸課題を解決するための方法論や技能を身につけ実践的展開に必要な能力を習得すること。

〔授業の目標〕

今日の情報社会では、コンピュータを適切に活用する技術は必須となっている。本授業では、コンピュータを活用した情報処理に必須となる情報社会に関する基礎的知識を習得するとともに、これからのSociety 5.0の社会を構成するデータやAI等の先端技術に関する理解を深めることをめざす。

〔授業の内容及び方法〕

受講者は、本授業で、①情報社会に関する基礎的知識（情報と法律・権利、ネットコミュニケーション、情報セキュリティ）及び②社会におけるデータ・AIの利活用について、講義形式で学ぶ。またこれらに加えて、本学における情報環境についても学ぶ。

〔授業計画〕

- 第 1 回 本学における情報環境及び1年次情報系科目の履修方法
学修・学術情報センター、WebClass、NESS、CLEVAS、大学メール（Gmail）、100周年記念館、情報教室、図書館、共用PC、学内無線LAN、UserDisk、印刷機、ICカード、ヘルプデスク
- 第 2 回 情報と法律・権利
個人情報保護、著作権、剽窃
- 第 3 回 ネットコミュニケーション
ネットコミュニケーションツール、インターネット上での情報の発受信、フェイクニュース、ネチケット、メールのマナー、オンライン会議ツールを使う上での注意点やマナー
- 第 4 回 情報セキュリティ
コンピューターウイルス、パスワード管理、不正アクセス
- 第 5 回 社会におけるデータ・AI利活用①
社会で起きている変化、社会で活用されているデータ
- 第 6 回 社会におけるデータ・AI利活用②
データ・AIの活用領域及び利活用のための技術
- 第 7 回 社会におけるデータ・AI利活用③
データ・AI利活用の現場、最新動向、留意事項
- 第 8 回 まとめ

〔課題及び授業時間外の学習内容〕

適宜、授業内容に基づいた課題が出されるため、授業時間外を利用して、課題を作成し提出する必要がある。

〔授業の到達目標〕

- (1) 情報社会に関する基礎的知識を習得し、情報や情報通信技術を倫理的かつ責任をもって活用しようとすることができる。
- (2) データやAIの先端技術によって、社会が大きく変化していることを理解するとともに、これらを活用する価値を説明できる。

〔履修上の注意・要望等〕

真摯な姿勢で講義に臨むこと。

〔授業外の学修（予習・復習等）について〕

日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね15時間の自主学修が必要となる。

〔アクティブ・ラーニングに関する事項〕

〔オープンな教育リソース（例：edX、Coursera、JMOOC等）〕

〔評価方法〕

(1) 定期試験：50%、(2) 課題の提出：40%、(3) 受講態度：10%により評価する。

〔評価のフィードバック方法〕

課題に対するフィードバックは成績評価をもってあてる。

〔教科書〕

noa出版編『情報倫理ハンドブック』noa出版、2025年。
noa出版編『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル（Microsoft365・Office2021対応）』noa出版、2022年。
吉岡剛志他『[改訂新版] AIデータサイエンスリテラシー入門』技術評論社、2024年。

〔参考文献〕

〔キーワード〕

情報活用能力、情報社会、Society 5.0、数理・データサイエンス・AI、社会におけるデータ・AI利活用

〔免許・資格に関する情報〕

- ◎必修_中・高（家庭）
◎必修_栄養教諭（一種）

調査と統計

SH12-3⑤-KD2-016

生活科学部 > 食物学科
1年生
2単位 後期
講義
選択必修
研究室：132（稲益）

稲益 智子

〔ディプロマ・ポリシーの要素との関連〕

食・健康に関する諸課題を解決するための方法論や技能を身につけ実践的展開に必要な能力を習得すること。

〔授業の目標〕

調査法の基礎および、調査データの分析や解釈において必要とされる統計学の基礎知識を身につける。

〔授業の内容及び方法〕

身近な題材を用いて、調査法の基礎と基本的な統計的手法をできる限りわかりやすく説明する。また、学術論文の解釈を通じて、学術研究で用いられる調査法と統計的手法の理解を深める。演習では、学生自身が発案・実施したアンケート調査結果の分析や、提携企業から提供された実際のデータを用いてエクセルで統計分析を行い、課題解決のための提言を行う。

〔授業計画〕

- 第 1 回 概論（講義室）
- 第 2 回 データの種類と性質
- 第 3 回 度数分布と分布の代表値
- 第 4 回 分散と標準偏差
- 第 5 回 正規分布
- 第 6 回 推測統計学の考え方
- 第 7 回 母集団統計値の推定
- 第 8 回 区間推定と標準誤差
- 第 9 回 統計的仮説検定
- 第 10 回 対応のない2標本t検定
- 第 11 回 リサーチクエスション（講義室）
- 第 12 回 調査票の作成
- 第 13 回 Excelによるデータ分析
- 第 14 回 報告書の作成
- 第 15 回 総括と復習（講義室）

〔課題及び授業時間外の学習内容〕

第1回～第10回までの各回の授業後に、授業内容に基づく記述式の小テストを課す。情報教室での演習問題については、第13回の授業終了時に提出を求める。

〔授業の到達目標〕

目的に合わせた調査をデザインし、データの性質に応じた分析方法を選択できる。簡易な調査票の作成、データの集計、グラフ化、主要な統計量の算出、検定結果の解釈ができる。

〔履修上の注意・要望等〕

高校数学の知識があれば有利だが、なくても授業の理解に問題はない。数学が苦手な学生も積極的に履修してほしい。履修者には、授業への積極的な関与を期待する。毎回出席し、不明点はなるべく授業時間内に解決すること。エクセル

の苦手な学生は、前期中または同時にエクセルを扱う情報系の授業を履修することが望ましい。

〔授業外の学修（予習・復習等）について〕

授業後に課される小テストに取り組むために、毎回1時間程度の学修が必要である。授業冒頭での質疑にも積極的に参加する必要がある、このため毎回の授業を集中して受講する姿勢が期待される。

〔アクティブ・ラーニングに関する事項〕

ICTを活用した双方向型授業、ICTを活用した自主学习支援（e-Learning）、発表（プレゼンテーション）

〔オープンな教育リソース（例：edx、Coursera、JMOOC等）〕

〔評価方法〕

授業態度（小テストの成績、質疑への参加）50%、期末試験50%で評価する。

〔評価のフィードバック方法〕

各学生に個別に評価結果を通知する。

〔教科書〕

授業ごとに掲示する。

〔参考文献〕

授業ごとに指示する。

〔キーワード〕

平均値、標準偏差、ヒストグラム、箱ひげ図、正規分布、標準誤差、対応のある2標本t検定

〔免許・資格に関する情報〕

調査と統計

J131-3⑤-KD2-016

生活科学部 > 児童学科
3年生
2単位 前期
講義
選択必修
研究室：132（稲益）

稲益 智子

〔ディプロマ・ポリシーの要素との関連〕

社会人としての一般教養や、課題解決能力が身につけている。

〔授業の目標〕

調査法の基礎および、調査データの分析や解釈において必要とされる統計学の基礎知識を身につける。

〔授業の内容及び方法〕

身近な題材を用いて、調査法の基礎と基本的な統計的手法をできる限りわかりやすく説明する。また、学術論文の解釈を通じて、学術研究で用いられる調査法と統計的手法の理解を深める。演習では、学生自身が発案・実施したアンケート調査結果の分析や、提携企業から提供された実際のデータを用いてエクセルで統計分析を行い、課題解決のための提言を行う。

〔授業計画〕

- 第 1 回 概論（講義室）
- 第 2 回 データの種類と性質
- 第 3 回 度数分布と代表値
- 第 4 回 分散と標準偏差
- 第 5 回 正規分布
- 第 6 回 推測統計学の考え方
- 第 7 回 母集団統計値の推定
- 第 8 回 区間推定と標準誤差
- 第 9 回 統計的仮説検定
- 第 10 回 対応のない2標本t検定
- 第 11 回 リサーチクエスション
- 第 12 回 調査票の作成
- 第 13 回 データ分析
- 第 14 回 報告書の作成
- 第 15 回 総括と復習（講義室）

〔課題及び授業時間外の学習内容〕

第1回～第10回までの各回の授業後に、授業内容に基づく記述式の小テストを課す。情報教室での演習問題については、第13回の授業終了時に提出を求める。

〔授業の到達目標〕

目的に合わせた調査をデザインし、データの性質に応じた分析方法を選択できる。簡易な調査票の作成、データの集計、グラフ化、主要な統計量の算出、検定結果の解釈ができる。

〔履修上の注意・要望等〕

高校数学の知識があれば有利だが、なくても授業の理解に問題はない。数学が苦手な学生も積極的に履修してほしい。履修者には、授業への積極的な関与を期待する。毎回出席し、不明点はなるべく授業時間内に解決すること。エクセル

ルの苦手な学生は、前期中または同時にエクセルを扱う情報系の授業を履修することが望ましい。

〔授業外の学修（予習・復習等）について〕

授業後に課される小テストに取り組むために、毎回1時間程度の学修が必要である。授業冒頭での質疑にも積極的に参加する必要がある、このため毎回の授業を集中して受講する姿勢が期待される。

〔アクティブ・ラーニングに関する事項〕

ICTを活用した双方向型授業、ICTを活用した自主学习支援（e-Learning）、発表（プレゼンテーション）

〔オープンな教育リソース（例：edx、Coursera、JMOOC等）〕

〔評価方法〕

授業態度（小テストの成績、質疑への参加）50%、期末試験50%で評価する。

〔評価のフィードバック方法〕

各学生に個別に評価結果を通知する。

〔教科書〕

授業ごとに配布する。

〔参考文献〕

授業ごとに指示する。

〔キーワード〕

平均値、標準偏差、ヒストグラム、箱ひげ図、正規分布、標準誤差、対応のある2標本t検定

〔免許・資格に関する情報〕

調査と統計

FU22-3⑨-KD2-016

生活科学部 > 社会福祉学科
2年生
2単位 後期
講義
選択必修
研究室：132（稲益）

稲益 智子

〔ディプロマ・ポリシーの要素との関連〕

ICT（情報通信技術）リテラシーの涵養を図り、福祉分野の実務を支える様々なICT活用能力を修得する。

〔授業の目標〕

調査法の基礎および、調査データの分析や解釈において必要とされる統計学の基礎知識を身につける。

〔授業の内容及び方法〕

身近な題材を用いて、調査法の基礎と基本的な統計的手法をできる限りわかりやすく説明する。また、学術論文の解釈を通じて、学術研究で用いられる調査法と統計的手法の理解を深める。演習では、学生自身が発案・実施したアンケート調査結果の分析や、提携企業から提供された実際のデータを用いてエクセルで統計分析を行い、課題解決のための提言を行う。

〔授業計画〕

- 第 1 回 概論（講義室）
- 第 2 回 データの種類と性質
- 第 3 回 度数分布と分布の代表値
- 第 4 回 分散と標準偏差
- 第 5 回 正規分布
- 第 6 回 推測統計学の考え方
- 第 7 回 母集団統計値の推定
- 第 8 回 区間推定と標準誤差
- 第 9 回 統計的仮説検定
- 第 10 回 対応のない2標本t検定
- 第 11 回 リサーチクエスチョン（講義室）
- 第 12 回 調査票の作成
- 第 13 回 Excelによるデータ分析
- 第 14 回 報告書の作成
- 第 15 回 総括と復習（講義室）

〔課題及び授業時間外の学習内容〕

第1回～第10回までの各回の授業後に、授業内容に基づく記述式の小テストを課す。情報教室での演習問題については、第13回の授業終了時に提出を求める。

〔授業の到達目標〕

目的に合わせた調査をデザインし、データの性質に応じた分析方法を選択できる。簡易な調査票の作成、データの集計、グラフ化、主要な統計量の算出、検定結果の解釈ができる。

〔履修上の注意・要望等〕

高校数学の知識があれば有利ですが、なくても授業の理解に問題はありませぬ。数学が苦手な学生も積極的に履修して下さい。履修者には、授業への積極的な関与を期待しま

す。毎回出席し、不明点はなるべく授業時間内に解決して下さい。

〔授業外の学修（予習・復習等）について〕

授業後に課される小テストに取り組むために、毎回1時間程度の学修が必要である。授業冒頭での質疑にも積極的に参加する必要があり、このため毎回の授業を集中して受講する姿勢が期待される。

〔アクティブ・ラーニングに関する事項〕

ICTを活用した双方向型授業、ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）、発表（プレゼンテーション）

〔オープンな教育リソース（例：edx、Coursera、JMOOC等）〕

〔評価方法〕

授業態度（小テストの成績、質疑への参加）50%、期末試験50%で評価する。

〔評価のフィードバック方法〕

各学生に個別に評価結果を通知する。

〔教科書〕

授業ごとに配布する。

〔参考文献〕

授業ごとに指示する。

〔キーワード〕

平均値、標準偏差、ヒストグラム、箱ひげ図、正規分布、標準誤差、対応のある2標本t検定

〔免許・資格に関する情報〕

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				教員免許		備考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	家庭	栄教		
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○							
共通教養科目	人権教育	講義		2	○							
	日本国憲法	講義		2	○				◎	◎		
	心理学概論	講義		2	○							
	日本語リテラシー	講義		2	○							
	美作地域学	演習		2			○					
	ファシリテーション演習	演習		1				○				
	関連科目 S D G s	現代生活論	講義		2	○						
国際社会と日本		講義		2	○							
地球環境論		講義		2	○							
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○							
	ボランティア論	講義		1			○					
	インターンシップ実習	実習		1				○				
	ボランティア実習	実習		1			○					
データサイエンス科目	情報リテラシー概論	講義	1		○				◎	◎		
	情報リテラシー演習・入門	演習		1	○						この8科目の中から、3科目4単位以上選択必修	
	情報リテラシー演習・基礎	演習		1	○				△	△		
	情報リテラシー演習・活用	演習		1	○							
	データサイエンス	演習		1	○							
	データ活用演習	演習		2		○				△	△	この2科目の中から、1科目2単位以上選択必修
	調査と統計	講義		2	○							
	データサイエンス科目関連資格認定Ⅰ	—		1			○					
データサイエンス科目関連資格認定Ⅱ	—		1			○						
語学科目	英語Ⅰ	演習	1		○						この14科目の中から、2科目2単位以上選択必修	
	英語Ⅱ	演習	1		○							
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎	◎		
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎	◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1			○					
	英語資格認定Ⅱ	実習		2			○					
	フランス語Ⅰ	演習		1	○							
	フランス語Ⅱ	演習		1	○							
	韓国語Ⅰ	演習		1	○							
	韓国語Ⅱ	演習		1	○							
	中国語Ⅰ	演習		1	○							
	中国語Ⅱ	演習		1	○							
	日本手話Ⅰ	演習		1	○							
	日本手話Ⅱ	演習		1	○							
留学生日本語Ⅰ	演習		1	○						「外国人留学生選考」合格者のみ履修可		
留学生日本語Ⅱ	演習		1	○								
健康科目	レクリエーション概論	講義		2				○			この4科目の中から、2科目2単位以上選択必修	
	レクリエーション実技・実習	実習		2				○				
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎	◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎	◎		
連防科災目関	災害を知る	講義		2	○						「防災士」関連科目	
	災害に備える	演習		2	○							
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—			○				単位は修得した科目の単位数を認定する	
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—			○					
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—			○					
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—			○					
学科基礎科目	基礎化学Ⅰ	講義		2	○							
	基礎化学Ⅱ	講義		2	○							
	栄養基礎化学	講義		2	○							
	基礎生物学Ⅰ	講義		2	○							
	基礎生物学Ⅱ	講義		2	○							

【卒業要件】必修科目5単位、選択必修科目8単位以上と選択科目17単位以上を合わせた、計30単位以上を修得のこと。

【備考1】教員免許欄の◎印科目は、必修科目。

【備考2】教員免許欄の△印科目は、いずれかを修得すること（選択必修科目）。

2. 専門教育科目

授 業 科 目		授業 形態	単位数		学 年 配 当				管理 栄養士	栄養士	教員免許		備 考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年			家庭	栄教	
家庭経営学概論		講義		2		○					◎		含家族関係学及び家庭経済学 含被服学
衣生活論		講義		2		○					◎		
住生活論		講義		2		○					◎		
食生活論		講義		2	○								
社会・健康 環境	公衆衛生学Ⅰ	講義		2				○	◎	◎	高免▲	◎	
	公衆衛生学Ⅱ	講義		2				○	◎		高免▲	◎	
	健康管理概論	講義		2	○				◎			◎	
	社会福祉概論	講義		2	○				◎	◎		◎	
人体の 構造と機能 及び疾病	病理学	講義		2		○			◎	◎		◎	
	疾病診断と治療	講義		2		○			◎	◎		◎	
	解剖生理学Ⅰ	講義		2	○				◎	◎		◎	
	解剖生理学Ⅱ	講義		2		○			◎			◎	
	解剖生理学実習Ⅰ	実習		1		○			◎	◎		◎	
	解剖生理学実習Ⅱ	実習		1			○		◎			◎	
	生化学Ⅰ	講義		2	○				◎	◎	▲	◎	
	生化学Ⅱ	講義		2		○			◎			◎	
	生化学実験	実験		1		○			◎	◎		◎	
	微生物学	講義		2		○			◎			◎	
基礎医学	講義		2	○									
食べ物と健康	食品学Ⅰ	講義		2	○				◎	◎	◎	◎	
	食品学Ⅱ	講義		2	○				◎	◎	◎	◎	
	食品学Ⅲ	講義		2		○							
	食品学実験	実験		1	○				◎	◎		◎	
	食品学実習	実習		1		○			◎		◎	◎	
	食品衛生学	講義		2		○			◎	◎	高免▲	◎	
	食品衛生学実験	実験		1			○		◎	◎	高免▲	◎	
	調理学	講義		2	○				◎	◎	◎	◎	
	調理学実習Ⅰ	実習		1	○				◎	◎	◎	◎	
	調理学実習Ⅱ	実習		1	○				◎	◎	▲	◎	
	給食調理学実習	実習		1		○			◎	◎		◎	
	調理学実験	実験		1		○			◎		◎	◎	
基礎 栄養学	基礎栄養学Ⅰ	講義		2	○				◎	◎	◎	◎	
	基礎栄養学Ⅱ	講義		2	○				◎	◎	◎	◎	
	基礎栄養学実験	実験		1		○			◎	◎		◎	
応用 栄養学	応用栄養学Ⅰ	講義		2		○			◎	◎	◎	◎	
	応用栄養学Ⅱ	講義		2			○		◎		◎	◎	
	小児栄養学演習	演習		1	未開講								
	高齢期栄養学演習	演習		1				○					
	応用栄養学実習	実習		1			○		◎	◎	◎	◎	
栄養アセスメント	講義		2		○			◎			◎		
栄養 教育論	栄養教育論Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		◎	
	栄養教育論Ⅱ	講義		2			○		◎	◎		◎	
	栄養教育論実習Ⅰ	実習		1		○			◎	◎		◎	
	栄養教育論実習Ⅱ	実習		1			○		◎			◎	
	カウンセリング	講義		2		○			◎			◎	
臨床 栄養学	臨床栄養学概論	講義		2		○			◎	◎		◎	
	臨床栄養学各論	講義		2			○		◎	◎		◎	
	臨床栄養学実習Ⅰ	実習		1			○		◎	◎		◎	
	臨床栄養学実習Ⅱ	実習		1			○		◎	◎		◎	
	福祉臨床栄養学	講義		2			○		◎			◎	
	福祉臨床栄養学実習	実習		1			○		◎			◎	
栄養ケアプラン	講義		2			○		◎			◎		
公衆 栄養学	公衆栄養学Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		◎	
	公衆栄養学Ⅱ	講義		2			○		◎			◎	
	公衆栄養学実習	実習		1			○		◎			◎	
給食 経営論	給食経営管理論Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		◎	
	給食経営管理論Ⅱ	講義		2		○			◎			◎	
	給食経営管理論実習	実習		1	○				◎	◎		◎	
総 演習	栄養管理総合演習	演習		1				○	◎			◎	
	臨地実習事前・事後指導	演習		1			○		◎			◎	

授 業 科 目		授業形態	単位数		学 年 配 当				管理 栄養士	栄養士	教員免許		備 考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年			家庭	栄教	
臨地実習	臨地実習Ⅰ	実習		1			○		◎	◎		◎	含:「給食の運営」に係る校外実習1単位
	臨地実習Ⅱ	実習		1			○		◎			◎	
	臨地実習Ⅲ	実習		1			○		◎			◎	
	臨地実習Ⅳ	実習		1			○		◎			◎	
単位 互換	放送大学科目Ⅲ	—	—			○							単位は修得した科目の単位数を認定する
	放送大学科目Ⅳ	—	—			○							
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅲ	—	—			○							
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅳ	—	—			○							
管理栄養特別演習Ⅰ	講義		1				○						
管理栄養特別演習Ⅱ	講義		1				○						
管理栄養特別演習Ⅲ	講義		1				○						
管理栄養特別演習Ⅳ	講義		1				○						
管理栄養特別演習Ⅴ	講義		1				○						
管理栄養特別演習Ⅵ	講義		1				○						
管理栄養特別演習Ⅶ	講義		1				○						
管理栄養特別演習Ⅷ	講義		1				○						
食料経済	講義		2			○							
食事計画論	講義		2	○									
栄養情報演習	演習		2			○							
学校栄養教育論Ⅰ	講義		2		○							◎	
学校栄養教育論Ⅱ	講義		2			○						◎	
被服実習	実習		1			○					◎		
保育学	講義		2		○						◎		
食物学演習	演習	1		○									
卒業研究	演習		4				○						

【卒業要件】 必修科目1単位に選択科目93単位を加え、94単位以上修得すること。

備考1：管理栄養士欄・栄養士欄および教員免許欄の◎印の科目は、必修科目。

備考2：教員免許欄の▲印の科目は、選択科目。

3. 教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	学 年 配 当				教員免許			備 考
			1年	2年	3年	4年	家 庭		栄教	
							中学	高校		
教職論	講義	2		○			◎	◎	◎	
教育原理	講義	2		○			◎	◎	◎	
教育心理学	講義	1		○			◎	◎	◎	
特別支援教育の理解	講義	1		○			◎	◎	◎	
教育課程論	講義	2			○		◎	◎	◎	
教育経営論	講義	2			○		◎	◎	◎	
家庭科教育法Ⅰ	演習	4			○		◎	◎		
家庭科教育法Ⅱ	演習	4			○		◎	▲		
道徳教育指導論	講義	2			○		◎		◎	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2			○		◎	◎	◎	
教育方法技術論・情報通信技術教育論	講義	2			○		◎	◎	◎	
生徒・進路指導論	講義	2			○		◎	◎	◎	
教育相談	講義	2			○		◎	◎	◎	
教職実践演習(中・高)	演習	2			○		◎	◎		
教職実践演習(栄養教諭)	演習	2			○				◎	
事前事後指導(家庭)	実習	1			○		◎	◎		
事前事後指導(栄養教諭)	実習	1			○				◎	
教育実習Ⅰ(家庭)	実習	2			○		◎	◎		
教育実習Ⅱ(家庭)	実習	2			○		◎			
教育実習(栄養教諭)	実習	1			○				◎	

備考1：教員免許欄の◎印の科目は、必修科目。

備考2：教員免許欄の▲印の科目は、選択科目。

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				教員免許			保育士	心理士	備考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	幼稚園	小学校	中学校				
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○										
共通教養科目	人権教育	講義	2		○							△			
	日本国憲法	講義	2		○				◎	◎	◎	△			
	心理学概論Ⅰ	講義	2		○							△	◎		
	日本語リテラシー	講義	2		○							△			
	美作地域学	演習	2				○								
	ファシリテーション演習	演習	1					○							
	S D G s 関連科目	現代生活論	講義	2		○									
		国際社会と日本	講義	2		○									
		地球環境論	講義	2		○							△		
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義	1		○										
	ボランティア論	講義	1				○								
	インターンシップ実習	実習	1				○								
	ボランティア実習	実習	1				○								
データサイエンス科目	情報リテラシー概論	講義	1		○							△			
	情報リテラシー演習・入門	演習	1		○							△		この8科目の中から、3科目 4単位以上選択必修	
	情報リテラシー演習・基礎	演習	1		○							△			
	情報リテラシー演習・活用	演習	1		○							△			
	データサイエンス	演習	1		○							△			
	データ活用演習	演習	2			○								この2科目の中から、1科目2単位以上 選択必修	
	調査と統計	講義	2			○									
	データサイエンス科目関連資格認定Ⅰ	—	1				○								
データサイエンス科目関連資格認定Ⅱ	—	1				○									
語学科目	英語Ⅰ	演習	1		○							△			
	英語Ⅱ	演習	1		○							△			
	英語Ⅲ	演習	1			○			◎	◎	◎	△			
	英語Ⅳ	演習	1			○			◎	◎	◎	△			
	英語資格認定Ⅰ	実習	1				○								
	英語資格認定Ⅱ	実習	2				○								
	フランス語Ⅰ	演習	1		○										
	フランス語Ⅱ	演習	1		○										
	韓国語Ⅰ	演習	1		○										
	韓国語Ⅱ	演習	1		○										
	中国語Ⅰ	演習	1		○										
	中国語Ⅱ	演習	1		○										
	日本手話Ⅰ	演習	1		○										
	日本手話Ⅱ	演習	1		○										
留学生日本語Ⅰ	演習	1		○									「外国人留学生選考」合格者のみ履修可		
留学生日本語Ⅱ	演習	1		○											
健康科目	レクリエーション概論	講義	2		○							△			
	レクリエーション実技・実習	実習	2				○					△		この4科目の中から、2科目 2単位以上選択必修	
	スポーツ健康講義	講義	1		○				◎	◎	◎	◎			
	スポーツ健康実習	実習	1		○				◎	◎	◎	◎			
連防 災目 関	災害を知る	講義	2		○										「防災士」関連科目
	災害に備える	演習	2		○										
単位 互換 科目	放送大学科目Ⅰ	—	—				○							単位は修得した科目の単位数 を認定する	
	放送大学科目Ⅱ	—	—				○								
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—				○								
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—				○								
学科 基礎 科目	児童学概論	講義	2		○							△			
	児童文化概論	講義	2		○							△			
	実践力基礎演習	演習	2		○									教員・保育士資格取得希望者は履修	
	心理学概論Ⅱ	講義	2		○							△	◎		
	芸術と人間	講義	2		○							△			

【卒業要件】 必修科目5単位、選択必修科目8単位以上と選択科目17単位以上を合わせた、計30単位以上を修得のこと。

【備考】 教員免許・保育士・心理士欄の◎印科目=必修科目、△印=選択必修科目、▲印=選択科目。

2. 専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				教員免許			保育士	心理士	備考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	幼稚園	小学校	中学校			
児童文化領域	児童文学	講義	2		○				▲	▲	▲			この3科目の中から、2科目4単位以上選択必修
	児童美術	講義	2		○				▲	△	△			
	児童音楽	講義	2	○					▲	△	△			
	児童文学演習	演習	2				○					▲		
	児童美術演習	演習	2				○					▲		
心理学領域	発達心理学Ⅰ	講義	2		○				◎	◎	◎	◎	△	
	発達心理学Ⅱ	講義	2		○				▲	▲	▲	▲	△	
	発達心理学Ⅲ	講義	2		未開講									
	子ども理解の理論と方法	演習	1			○			◎			◎		
	教育心理学	講義	2			○			◎	◎	◎	▲	△	
	学校臨床心理学	講義	2				○						▲	
	心理学研究法	講義	2	○									◎	
	心理統計法	講義	2			○							◎	
	心理データ解析	講義	2			○							△	
	心理学基礎実験	実験	2			○							◎	
	心理学実験演習	実験	2			○							◎	
	認知心理学	講義	2				○						△	
	学習心理学	講義	2			○							△	
	比較心理学	講義	2	○									△	
	児童臨床心理学	講義	2				○			▲	▲	▲	▲	△
	児童臨床心理学演習	演習	2				○					▲	△	
	心理診断法	講義	2		未開講									
	カウンセリング	演習	2			○						▲	△	
	社会心理学	講義	2	○									△	
	家族心理学	講義	2				○				▲	◎	△	
心理学特論	講義	2		未開講										
教育学領域	児童教育学概論	講義	2		○							▲		幼児：保育・教職論（幼稚園）のいずれか選択必修
	教職論	講義	2		○				△	◎	◎			
	学校教育社会学	講義	2		○				◎	◎	◎			
	教育原理	講義	2			○			◎	◎	◎	◎		
	教育課程論（小・中）	講義	2		○					◎	◎			
	教育課程各論	講義	2			○								
	生徒・進路指導論	講義	2			○				◎	◎			
	教育相談	講義	2		○				◎	◎	◎	▲	△	
	特別支援教育の理解	講義	1			○			◎	◎	◎			
	道徳教育指導論	講義	2			○				◎	◎			
	特別活動指導法	講義	1			○				◎	◎			
	総合的な学習の時間の指導法	講義	1			○				◎	◎			
	教育方法技術論・情報通信技術教育論	講義	2				○			◎	◎			
I C T活用演習	演習	2		○				◎	◎	◎	▲			
教科関連領域	国語概論	講義	2			○			▲	△	△			含書写
	書道	講義	2	○						▲	▲			
	社会科概論	講義	2		○					△	△			
	数学概論	講義	2	○						△	△			
	理科概論	講義	2		○					△	△			
	生活科概論	講義	2			○			▲	△	△			
	音楽Ⅰ（器楽）	演習	2	○					▲	▲	▲	▲		
	音楽Ⅱ（器楽）	演習	2		○							▲		
	音楽Ⅲ（声楽）	演習	2		○					▲	▲	▲		
	美術Ⅰ（絵画）	演習	2	○					▲	▲	▲	▲		
	美術Ⅱ（彫塑）	演習	2	○						▲	▲	▲		
	児童体育	演習	2		○				▲	△	△			
	児童保健学概論	講義	2		○				▲	▲	▲	▲		
	家庭科概論	講義	2	○						△	△			
	児童英語	講義	2			○				△	△			
	家庭経営学概論（含家族関係学及び家庭経済学）	講義	2		○					△	◎			
	衣生活論（含被服学）	講義	2		○					△	◎			
	被服実習	演習	1			○				△				
	食物学	講義	2			○				△	◎			
	食品学	講義	2				○			△				
住生活論	講義	2		○					△	◎				
保育学	講義	2		○					△	◎				
教職関連領域	国語科教育法	演習	1		○					◎	◎			
	国語科教育法研究	演習	1		○					△	△			
	社会科教育法	演習	1		○					◎	◎			
	社会科教育法研究	演習	1		○					△	△			
	算数科教育法	演習	1		○					◎	◎			
	算数科教育法研究	演習	1		○					△	△			
	理科教育法	演習	1		○					◎	◎			
	理科教育法研究	演習	1		○					△	△			
	生活科教育法	演習	1			○				◎	◎			
	生活科教育法研究	演習	1		○					△	△			

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				教員免許			保育士	心理士	備考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	幼稚園	小学校	中学校				
教職関連領域	音楽科教育法	演習		1				○			◎	◎			
	音楽科教育法研究	演習		1				○			△	△			
	図画工作科教育法	演習		1	○						◎	◎			
	図画工作科教育法研究	演習		1		○					△	△			
	体育科教育法	演習		1				○			◎	◎			
	体育科教育法研究	演習		1				○			△	△			
	家庭科教育法	演習		1		○					◎	◎			
	家庭科教育法研究	演習		1		○					△	◎			
	外国語科教育法	演習		1				○			◎	◎			
	外国語科教育法研究	演習		1				○			△	△			
	家庭科教育法Ⅰ	演習		4				○				▲			
	家庭科教育法Ⅱ	演習		4				○				▲			
	教職実践演習(幼・小・中)	演習		2				○	△		◎	◎			
	事前事後指導(小学校)	実習		1				○			◎	◎			
	事前事後指導(中学校)	実習		1				○				▲			
	教育実習(小学校)	実習		4				○			◎	◎			
	教育実習(中学校)	実習		2				○				▲			
	学校支援活動	実習		1				○				◎			
子育て支援領域	保育原理	講義		2			○					◎			
	保育・教職論(幼稚園)	講義		2			○			△		◎			幼児：教職論(幼・小)のいずれか選択必修 小免コースは3年次配当 幼保コースは2年次配当
	子ども家庭福祉	講義	2				○					◎			
	社会福祉	講義		2	○							◎			
	子ども家庭支援論	演習		2			○					◎			
	社会的養護Ⅰ	講義		2			○					◎			
	子どもの保健	講義		2			○					◎			
	子どもの健康と安全	演習		1			○					◎			
	子どもの食と栄養	演習		2				○				◎			
	保育の計画と評価	講義		2			○					◎			
	教育課程論(幼稚園)	講義		2			○			◎		▲			
	子どもと健康	演習		1			○			△		◎			
	子どもと人間関係	演習		1			○			△		◎			
	子どもと環境	演習		1			○			△		◎			
	子どもと言葉	演習		1			○			△		◎			
	子どもと表現Ⅰ	演習		1			○			△		◎			
	子どもと表現Ⅱ	演習		1			○			△		◎			
	保育内容総論	演習		2			○			◎		◎			
	保育内容健康	演習		2			○			◎		◎			
	保育内容人間関係	演習		2			○			◎		◎			
	保育内容環境	演習		2			○			◎		◎			
	保育内容言葉	演習		2			○			◎		◎			
	保育内容表現	演習		2			○			◎		◎			
	乳児保育Ⅰ	講義		2			○					◎			
	乳児保育Ⅱ	演習		1			○					◎			
	障がい児保育Ⅰ	演習		1			○					◎			
	障がい児保育Ⅱ	演習		1			○					◎			
	社会的養護Ⅱ	演習		1			○					◎			
	子育て支援	演習		1				○				◎			
	保育方法論	講義		2				○	◎			▲			含情報機器及び教材の活用
	保育実習指導Ⅰ(A)	演習		1			○					◎			
	保育実習指導Ⅰ(B)	演習		1			○	○				◎			2年後期から3年前期
	保育実習指導Ⅱ	演習		1				○				△			
	保育実習指導Ⅲ	演習		1				○				△			
	保育実習Ⅰ(A)	実習		2			○					◎			
	保育実習Ⅰ(B)	実習		2				○				◎			
保育実習Ⅱ	実習		2				○				△				
保育実習Ⅲ	実習		2				○				△				
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2				○	△			◎				
事前事後指導(幼稚園)	実習		1				○	○	◎					コースによって配当学年が異なる	
教育実習Ⅰ(幼稚園)	実習		2				○	○	◎					コースによって配当学年が異なる	
教育実習Ⅱ(幼稚園)	実習		2				○	○	◎					コースによって配当学年が異なる 併せて、小学校の免許状を取得する場合は履修しなくてもよい	
単位互換	放送大学科目Ⅲ	—	—			○									
	放送大学科目Ⅳ	—	—			○									単位は修得した科目の単位数を認定する
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅲ	—	—			○									
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅳ	—	—			○									
卒業研究	心理学特講	講義		2			○					▲			この2科目の中から、1科目2単位以上選択必修
	児童学特講	講義		2			○								
	卒業論文	演習		4				○							

【卒業要件】必修科目22単位(含選択必修科目8単位)に選択科目72単位を加え、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄、保育士欄及び心理士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

1. 教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士	
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○						
共通教養科目	人権教育	講義		2	○						
	日本国憲法	講義		2	○				◎		
	心理学概論(心理学と心理的支援Ⅰ)	講義		2	○					◎	
	日本語リテラシー	講義		2	○						
	美作地域学	演習		2			○				
	ファシリテーション演習	演習		1				○			
関連科目 SDGs	現代生活論	講義		2	○						
	国際社会と日本	講義		2	○						
	地球環境論	講義		2	○						
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○						
	ボランティア論	講義		1			○				
	インターンシップ実習	実習		1			○				
	ボランティア実習	実習		1			○				
データサイエンス科目	情報リテラシー概論	講義	1		○						
	情報リテラシー演習・入門	演習		1	○						この8科目の中から、3科目4単位以上選択必修
	情報リテラシー演習・基礎	演習		1	○						
	情報リテラシー演習・活用	演習		1	○						
	データサイエンス	演習		1	○						
	データ活用演習	演習		2		○					この2科目の中から、1科目2単位以上選択必修
	調査と統計	講義		2		○					
	データサイエンス科目関連資格認定Ⅰ	—		1			○				
データサイエンス科目関連資格認定Ⅱ	—		1			○					
語学科目	英語Ⅰ	演習	1		○						
	英語Ⅱ	演習	1		○						
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎		
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1			○				
	英語資格認定Ⅱ	実習		2			○				
	フランス語Ⅰ	演習		1	○						
	フランス語Ⅱ	演習		1	○						この14科目の中から、2科目2単位以上選択必修
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						
	中国語Ⅰ	演習		1	○						
	中国語Ⅱ	演習		1	○						
	日本手話Ⅰ	演習		1	○						
	日本手話Ⅱ	演習		1	○						
留学生日本語Ⅰ	演習		1	○						「外国人留学生選考」合格者のみ履修可	
留学生日本語Ⅱ	演習		1	○							
健康科目	レクリエーション概論	講義		2	○						この4科目の中から、2科目2単位以上選択必修
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○						
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		
科関連防災	災害を知る	講義		2	○						「防災士」関連科目
	災害に備える	演習		2	○						
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	—	—	—		○					単位は修得した科目の単位数を認定する
	放送大学科目Ⅱ	—	—	—		○					
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	—	—	—		○					
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	—	—	—		○					
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○						
	住まいと福祉	講義		2		○					
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					
	社会の変化と社会福祉	講義		2	○						
	数学の基礎	講義		2		○					

【卒業要件】必修科目5単位、選択必修科目8単位以上と選択科目17単位以上を合わせた、計30単位以上を修得のこと。

【備考1】教員免許欄の◎印科目は必修科目。

【備考2】レクリエーション実技・実習は現場実習(スタッフ参加・事業参加)を含む。

2. 専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
専門基幹科目	社会福祉系	児童・家庭福祉Ⅰ	講義	2		○				◎	◎	必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと
		児童・家庭福祉Ⅱ	講義		2	○				▲	◎	
		高齢者福祉Ⅰ	講義	2		○				◎	◎	
		高齢者福祉Ⅱ	講義		2	○				▲	◎	
		障害者福祉Ⅰ	講義	2			○			◎	◎	
		障害者福祉Ⅱ	講義		2		○			▲	◎	
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	2			○			◎	◎	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義		2		○			◎	◎	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	講義	2			○			▲	◎	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	講義		2			○		▲	◎	
		介護概論	講義		2	○				◎		
	加齢の理解	講義		2		○			◎			
	障害の理解	講義		2		○			◎			
	まちづくり系	NP0・ボランティア活動論	講義		2		○					
		安全・安心のまちづくり	講義		2			○				
		地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○					
		地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○					
地方自治体施策とまちづくり		講義		2				○				
中山間地福祉のまちづくり		講義		2				○				
専門展開科目	貧困に対する支援	講義		2	○				◎	◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	
	社会福祉事業史	講義		2			○					
	社会保障Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○				◎	◎		
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義		4		○			▲	◎		
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義		4			○		▲	◎		
	社会福祉調査の基礎	講義		2			○		▲	◎		
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○		▲	◎		
	権利擁護を支える法制度	講義		2			○			◎		
	刑事司法と福祉	講義		2			○			◎		
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習		1		○			◎	◎		
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習		1			○		◎	◎		
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習		1			○		◎	◎		
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	演習		1				○	◎	◎		
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	演習		1				○	◎	◎		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習		1			○		◎	◎		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習		2				○	◎	◎		
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習		1			○		◎	◎		
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習		4				○	◎	◎		
	介護実習	実習		1			○		◎			
	医学概論	講義		2		○				◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○			◎			
	リハビリテーション論	講義		2		○			▲			
	心理学と心理的支援Ⅱ	講義		2	○					◎		
	社会学と社会システム	講義		2		○				◎		
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○					
	保健医療と福祉	講義		2			○			◎		
	精神保健	講義		2			○					
	カウンセリング	講義		2			○					
	家庭支援論	講義		2			○					
福祉情報論及び同演習	演習		2		○			▲				
福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○						
福祉のまちづくり論	講義		2				○					

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士	
その他の専門科目	食生活論	講義		2	○						
	住生活論	講義		2		○					
	衣生活論	講義		2		○					
	教育心理学	講義		1		○			◎		
	特別支援教育の理解	講義		1		○			◎		
	コミュニケーション演習	講義		2		○					
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2		○					
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○			◎		
	パソコン演習Ⅱ	演習		2				○			
	簿記会計学	講義		2				○			
単位互換	放送大学科目Ⅲ	—	—	—		○					単位は修得した科目の単位数を認定する
	放送大学科目Ⅳ	—	—	—		○					
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅲ	—	—	—		○					
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅳ	—	—	—		○					
卒業系	特別演習Ⅰ	演習	2				○				
	特別演習Ⅱ	演習		2				○			
	特別演習Ⅲ	演習	1					○			
	卒業研究	演習		4				○			

【卒業要件】専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

3. 教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備考
			1年	2年	3年	4年	
教職論	講義	2		○			
教育原理	講義	2		○			
教育経営論	講義	2			○		
教育課程論	講義	2			○		
福祉科教育法	演習	4			○		
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2			○		
教育方法技術論・情報通信技術教育論	講義	2			○		
生徒・進路指導論	講義	2				○	
教育相談	講義	2				○	
教職実践演習（高）	演習	2				○	
事前事後指導	実習	1				○	
教育実習	実習	2				○	

【備考】教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

美作大学・美作大学短期大学部 情報教育委員会規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、美作大学・美作大学短期大学部(以下「本学」という。)学修・学術情報センター規程第 9 条に規定する専門委員会：情報教育委員会について、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は本学の情報教育の円滑な実施と、その充実を図るため、次の各号に掲げる事項について審議し、調整にあたる。

- (1) 学生の教育のための情報教室の整備と使用の調整に関する事項
- (2) 学内で使用する教育用ソフトウェアの整備と管理に関する事項
- (3) その他、本学の情報教育の充実に関する事項

(委員会の構成)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学修・学術情報センター長（以下「センター長」という。）
- (2) 教務部長
- (3) 教務課長
- (4) 学修・学術情報センター主任（以下「センター主任」という。）
- (5) 学長が委嘱した情報教育担当教職員

(任期)

第 4 条 第 3 条第 5 号の委員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長等)

第 5 条 委員会に委員長及び幹事を置く。

- 2 委員長は、センター長とする。
- 3 幹事は、センター主任とする。

(会議)

第 6 条 委員長は会議を招集し、議長となる。

- 2 幹事は委員長の命を受け、委員会の事務を処理する。
- 3 委員会は必要に応じて、委員以外の教職員等の出席を求めることができる。

(事務)

第 7 条 この規程に関する事務は、学修・学術情報センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第 8 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

美作大学・美作大学短期大学部 情報教育委員会規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、美作大学・美作大学短期大学部(以下「本学」という。)学修・学術情報センター規程第 9 条に規定する専門委員会：情報教育委員会について、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は本学の情報教育の円滑な実施と、その充実を図るため、次の各号に掲げる事項について審議し、調整にあたる。

- (1) 学生の教育のための情報教室の整備と使用の調整に関する事項
- (2) 学内で使用する教育用ソフトウェアの整備と管理に関する事項
- (3) その他、本学の情報教育の充実に関する事項

(委員会の構成)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学修・学術情報センター長（以下「センター長」という。）
- (2) 教務部長
- (3) 教務課長
- (4) 学修・学術情報センター主任（以下「センター主任」という。）
- (5) 学長が委嘱した情報教育担当教職員

(任期)

第 4 条 第 3 条第 5 号の委員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長等)

第 5 条 委員会に委員長及び幹事を置く。

- 2 委員長は、センター長とする。
- 3 幹事は、センター主任とする。

(会議)

第 6 条 委員長は会議を招集し、議長となる。

- 2 幹事は委員長の命を受け、委員会の事務を処理する。
- 3 委員会は必要に応じて、委員以外の教職員等の出席を求めることができる。

(事務)

第 7 条 この規程に関する事務は、学修・学術情報センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第 8 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

大学等名	美作大学
教育プログラム名	美作大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和7年度

取組概要

プログラムの目的

数理・データサイエンス・AIへの関心と理解を深め、VUCA環境に適応し社会に貢献できる人材を育てる

身に付けられる能力

- ①情報社会に関する基礎的知識を修得し、情報や情報通信技術を論理的かつ責任をもって活用しようとすることができる
- ②データやAIの先端技術によって、社会が大きく変化していることを理解するとともに、これらを活用する価値を説明できる

開講されている科目の構成と修了要件

「情報リテラシー概論」1単位
「調査と統計」2単位
以上2科目3単位を修得することを修了要件とする

体制・計画と点検・評価

情報教育委員会（学修・学術情報センター長・主任、教務部長・課長、情報教育担当教職員）と教員が連携してプログラムを推進し、点検・評価・改善を行う

特色

数理・データサイエンス・AI分野を「自分ごと」として捉え、学ぶ楽しさや意義を実感できるよう、授業設計にさまざまな工夫をしている。